

# こ　　ど　　も　　の　　か　　か　　り　　や　　す　　い　　感　　染　　症

病　　名	症　　状	発症までの期間	感　染　の　し　か　た	病気のうつる期間	登園のめやす	手　　当　　て	予防接種	登園確認書等の提出
み　　ず　　ぼ　　う　　そ　　う (水　　痘)	○小さい赤い発しんが、顔や胸から始まって全身に広がる。 ○赤い発しんは、水ぶくれとなり、かさぶたができて治る。 古い発しんと新しい発しんが混在する。	14日～16日	飛沫感染 空気感染 接触感染	発しんが出る1～2日前から、すべての発しんがかさぶたになるまで	すべての発しんがかさぶたになるまで	○熱のあるときは、発疹が乾燥するまで安静にして、栄養価の高い消化のよいものを与え、水分を十分に与える。 ○幼児はかゆくてかきむしるので、爪を切り、手を洗って清潔にしておくこと。	あり	必要
お　　た　　ふ　　く　　か　　ぜ (流行性耳下腺炎)	○片側又は両側の耳下腺がはれ、痛がる。 ○発熱、食欲がない。頭痛、嘔吐といった症状が出ることもある。 ○はれは3日位で一番ひどく、しだいに消えていく。	16日～18日	飛沫感染 接触感染	耳下腺のはれの始まる2～3日前から、はれが発現したあと5日ころまで	耳下腺、顎下腺、舌下腺のはれが発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	○安静にして、はれた耳下腺を湿布する。 ○酸味のある飲食物をあたえない。柔らかい消化のよい食物をあたえる。	あり	必要
感　　染　　性　　胃　　腸　　炎	○嘔気、嘔吐、下痢、発熱、腹痛などがある。	ノロウイルス 12時間～48時間 ロタウイルス 1日～3日	経口感染 飛沫感染	症状が出る前から、症状がなくなって1～3週間	下痢・嘔吐が治まり3日を経過するまで	○下痢、嘔吐で失う水分を十分に補給して脱水を防ぐことが最も大切。	ロタウイルスのみあり	必要
は　　し　　ん　　か (麻　　し　　ん)	○高熱、せき、鼻汁、目が赤くなり、目やにがでる。ほほの内側に白い斑点がでる。 ○発熱後4日目位から頭から全身に発しんがでる。	8日～12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	症状がでる(発熱など)1日前から熱がさがって3日を経過するまで	熱がさがった後、3日を経過するまで	○十分な水分と消化の良い食物を与える。 ○うがいなどをさせて口の中を清潔に保つ。	あり	必要
風　　し　　ん (三日はしか)	○軽いかぜ症状が最初にもある。発熱、くびや耳後部のリンパ節のはれ、発疹が顔から全身に出る。 ○発疹は3日位で消える。	16日～18日	飛沫感染 接触感染	発しんが出る7日前から、発しんが出てから7日目ころまで	発しんが消えるまで	○熱が続く間、静かに寝かせ、発疹が続く間屋内で静かに過ごさせる。 ○妊婦さんには近づけないよう注意する。	あり	必要
百　　日　　咳	○特有な咳(コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛のような音を立てて息を吸うもの)が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。	7日～10日	飛沫感染 接触感染	咳が出てから、4週目ころまで	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	○早めに医師に受診し、治療をうける。 ○安静にし、服薬を確実にする。	あり	必要
プ　　ール　　熱 (咽頭結膜熱)	○高熱、のどの痛み、食欲不振、目の充血、目やにが出る。	2日～14日	飛沫感染 接触感染	発症後数日が感染力が最も強く、数週間続くこともある	発熱、のどの痛み、目の充血など主な症状が消えてから2日を経過するまで	○高熱が続く場合が多く、熱の手当と水分の補給をする。 ○のどの痛みが強いので、刺激の強い食べ物は避ける。	なし	必要
流　　行　　性　　角　　結　　膜　　炎	○目の充血、目やにがでる。	2日～14日	飛沫感染 接触感染	発症後数日が感染力が最も強く、数週間続くこともある	結膜炎の症状がなくなるまで	○眼に触らないようにする。 ○手洗いをし、洗面具やタオルなどは共有しないこと。	なし	必要
急　　性　　出　　血　　性　　結　　膜　　炎	○強い目の痛み、目の結膜(白眼の部分)の充血、結膜下出血がみられる。目やにや角膜の混濁もみられる。	平均24時間 又は2日～3日	飛沫感染 接触感染	ウイルスの排出期間の間(咳や鼻水から1～2週間、便からは数週間から数か月間)	医師において感染のおそれはないと認められるまで	○眼に触らないようにする。 ○手洗いをし、洗面具やタオルなどは共有しないこと。	なし	必要
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111 などでベロ毒素を 産生する大腸菌)	○水様下痢便、腹痛、血便がみられる。 ○尿量が減ることで出血しやすく、意識障害を来す溶血性尿毒症候群を合併し、重症化する場合がある。	10時間～6日 O157は 主に3日～4日	経口感染 接触感染	便中に菌が排泄されている間	医師において感染のおそれがないと認められるまで トイレでの排泄習慣が確立されていない場合は、2回以上連続で便からの菌が検出されなくなり、全身状態が良好になるまで	○衛生的な食材の取り扱いと十分な加熱調理 ○手洗いの励行 ○消毒の徹底	なし	必要
インフルエンザ	○突然の高熱、倦怠感、食欲不振などの全身症状やのどの痛み、鼻水、咳などがでる。	1日～4日	飛沫感染 接触感染	発熱1日前から7日目ころまで。	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで	○安静にし、熱の手当と、水分の補給をする。 ○発熱後、6～8時間あけて受診し検査をする。	あり	「療養解除届」の提出が必要
新型コロナウイルス感染症	○発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常など	約3日～5日	飛沫感染 エアロゾル感染※ 接触感染	発症2日前から発症後7～10日間、特に発症後5日間	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで	○安静にし、熱の手当と、水分の補給をする。 ○症状に合わせて服薬等を行う。 ○高齢者等への接触を避ける。	あり	「療養解除届」の提出が必要
マイコプラズマ肺炎	○咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくり進行する。 ○特に咳は、徐々に激しくなり、数週間続く場合がある。	2～3週間	飛沫感染	症状のある間がピークで、保菌は数週間から数か月間持続する	発熱や激しい咳がなくなるまで	○安静にして、部屋は十分に加湿をする。 ○水分補給をこまめにして、のどごしのいいものや柔らかいものを与える	なし	不要
溶　　連　　菌　　感　　染　　症	○扁桃炎では発熱、のどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じ、舌が赤く腫れ、全身に鮮紅色の発しんがでる。○	2日～5日	飛沫感染 接触感染	抗菌薬内服後24時間以内	抗菌薬内服後24～48時間経過していること	○まず安静にすることが大切。 ○症状がおさまっても、腎炎やリウマチ熱といった合併症を起こすことがある。	なし	不要
と　　び　　ひ (膿　　痂　　疹)	○顔や手足に米粒大からエンドウ豆大の発赤水ぶくれができ、皮がやぶれてうみがあちこちについて広がり、化膿してかさぶたになる。	2日～10日	接触感染	うみの出る間	患部を外用药で処置し、浸出液がしみ出ないようにガーゼ等で覆って登園してさしつかえない	○医師に受診し、治療をうける。 ○自分の体の他の場所や他の人に感染させないように注意する。	なし	不要
り　　ん　　ご　　病 (伝染病紅斑)	○両ほほがりんごのように赤くなり、次に手足も赤くなる。 ○関節痛や、熱が出ることもある ○日光や入浴で赤味が目立つようになる。	4日～14日	飛沫感染	かぜ症状発現から顔に発しんが出るまで	全身症状が良ければ登園可	○症状が軽く、気づかずに治っていることもあるが、熱のあるときは、頭を冷やし安静にする。 ○妊婦さんに近づかないよう注意する。	なし	不要
手　　足　　口　　病	○口の中の粘膜の発疹、口内痛がある。 ○手足に水ぶくれのある発疹ができ、発熱のあるものもある。 ○口内痛で食事をとることが困難になる。	3日～6日	飛沫感染 糞口(経口)感染 接触感染	発しん出現1日前から4～5週間 感染力が強いのは最初の1週間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	○3～4日で自然に治る。 ○熱が高い場合は医師の診察をうける。 ○口内痛がひどいときは、薄味の柔らかい体温と同じ位の温度の食物を与える。	なし	不要
R S ウイルス感染症	○発熱、鼻汁、痰がからんだ咳、喘鳴などがある。 ○乳幼児は、細気管支炎や肺炎など重症化しやすい。	4日～6日	飛沫感染 接触感染	通常3～8日間 (乳児は3～4日間)	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良ければ登園可	○生後6か月未満の児は重症化しやすい。 ○一度の感染では終生免疫ができず、繰り返し感染する。	なし	不要

※ ウイルスを含むエアロゾルと呼ばれる小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入することで感染する。

# こどものかかりやすい感染症

乳幼児期は病気にかかりやすく、場合によっては重い病状に至ることもあります。日頃からお子さんの体調に注意し、感染症の早期発見に努めましょう。

症状	登園を控えるほうが望ましい場合
発熱	○24時間以内に38℃以上の熱が出た場合や、解熱剤を使用している場合。 ○朝から37.5℃を超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が摂れていないなど、全身状態が不良である場合。
下痢 ※	○24時間以内に複数回の水様便がある、食事や水分を摂るとその刺激で下痢をする、下痢と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合。 ○朝に、排尿がない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状がみられる場合。
おう吐 ※	○24時間以内に複数回のおう吐がある、おう吐と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合。 ○食欲がなく、水分も欲しがらない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状がみられる場合。
咳	○夜間しばしば咳のために起きる、ゼイゼイ音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある、呼吸が速い、少し動いただけで咳が出るなどの症状がみられる場合。
発しん	○発熱とともに発しんのある場合。 ○感染症による発しんが疑われ、医師より登園を控えるよう指示されている場合。 ○口内炎がひどく食事や水分が摂れない場合。 ○発しんが顔面等にあり、患部が覆えない場合。 ○浸出液等が多く他児への感染のおそれがある場合。 ○かゆみが強く手で患部を掻いてしまう場合。

※『感染性胃腸炎』における下痢やおう吐症状については、中面の登園めやすを参照ください。

## 感染症にかかったときは

- 静かに寝かせる。
- こどもの状態をよく観察する。(熱、便、食欲、発疹など)
- 医師の診察をうける。
- 保育園、幼稚園はお休みする。
- 登園するときは、医師から「登園確認書」を記入してもらい、園へ提出する(表中「登園確認書の提出」欄に要と記載されているものに限る)。
- 登園確認書が不要な感染症においては、かかりつけ医で適切な治療を受け、保育園、幼稚園での集団生活に適應できる状態に回復してから登園する。

《発行》

糸魚川市教育委員会事務局こども家庭課  
電話 552-1511(代表)